

ロータリーの変化に対して

第2部

地区ロータリー情報委員会 委員長

灘谷 和徳 (福岡平成RC)

「ロータリーの変化」の背景にあるもの

その一つは

「ロータリアンの構成の変化」

ではないでしょうか

(1)世界のロータリアン数の推移 ～ストックとフロー～

ロータリー・コーディネーター RID2520桑原茂PDGのレポートより



(2) 世界のロータリアン数の推移

地域	2006.6.30現在		2013.3.31現在		会員増減
	クラブ数	会員数	クラブ数	会員数	
日本	2,325	101,370	2,285	88,469	▲ 12,901
アメリカ	7,761	383,697	7,814	341,304	▲ 42,393
EU28ヶ国	7,029	284,282	7,421	279,109	▲ 5,173
その他先進国	2,666	94,818	2,622	87,295	▲ 7,523
アジア	5,972	197,742	6,930	247,871	50,129
中南米	4,059	82,825	4,120	89,736	6,911
アフリカ	699	16,520	826	20,140	3,620
上記合計	30,511	1,161,254	32,018	1,153,924	▲ 7,330
その他	2,245	61,534	2,362	61,755	221
総計	32,756	1,222,788	34,380	1,215,679	▲ 7,109

BRICsやMINT諸国が増加

出展:RIのHP国別データを灘谷にて集計・編集

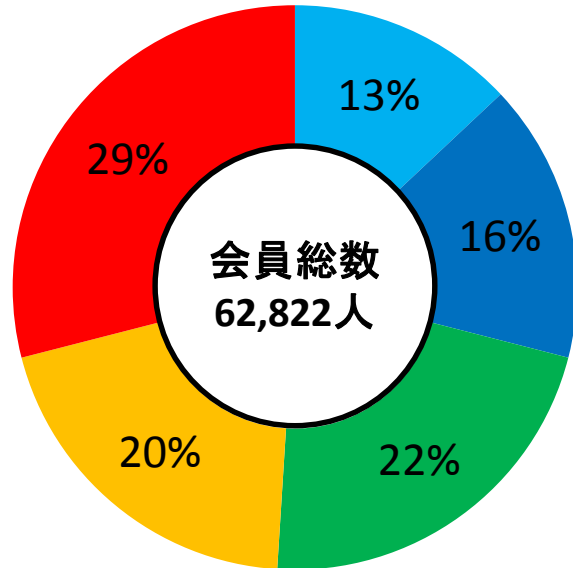
(3) 世界と日本のロータリアン数の増加(入会)と減少(退会)

(単位:人)

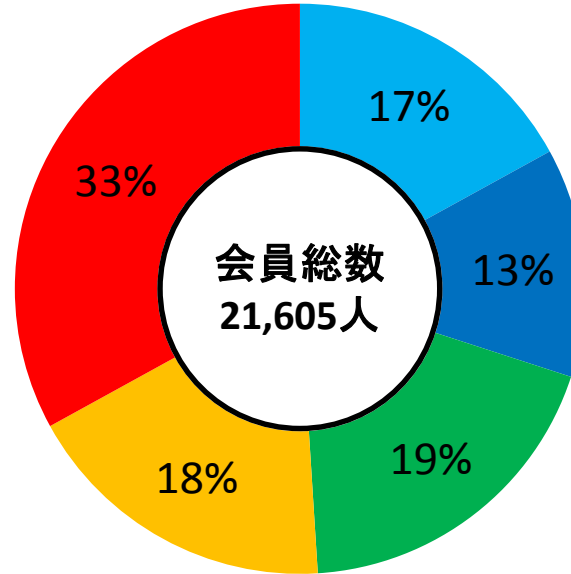
地 域	2006.6.30現在	2013.3.31現在	増減	入会者数	退会者数
全 世 界	1,222,788	1,215,679	▲ 7,109	約 1,200,000	約 1,200,000
地 域	2006.6.30現在	2013.6.30現在	増減	入会者数	退会者数
日 本	98,855	86,462	▲ 12,393	46,350	58,743
第2700地区	3,285	3,103	▲ 182	2,029	2,211

(4) アジア地区における会員の現状(ロータリアン歴) 1

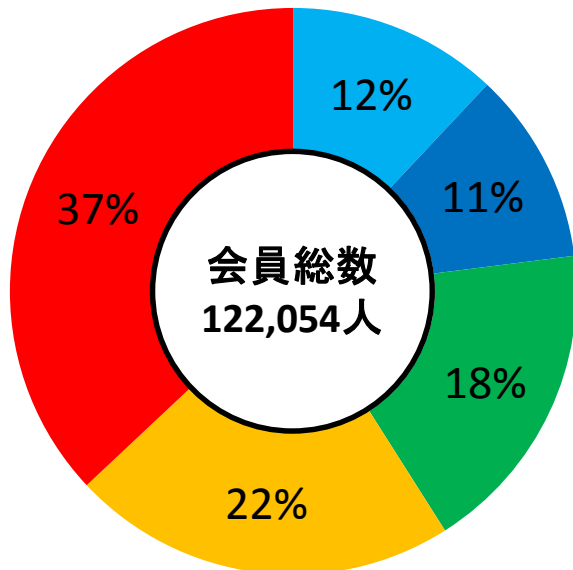
韓国



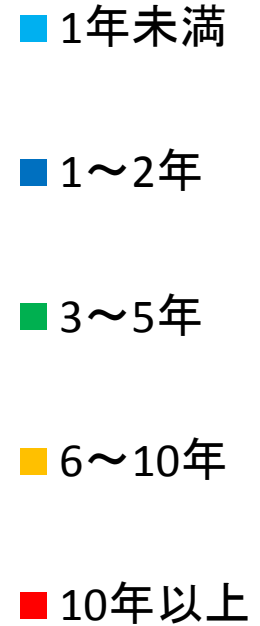
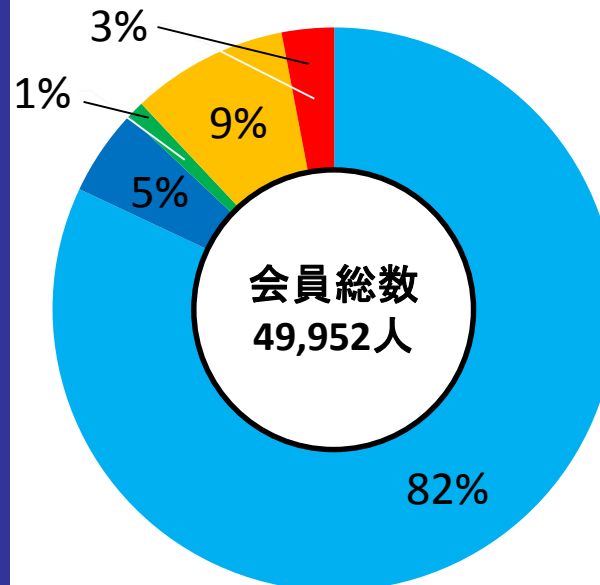
フィリピン



インド

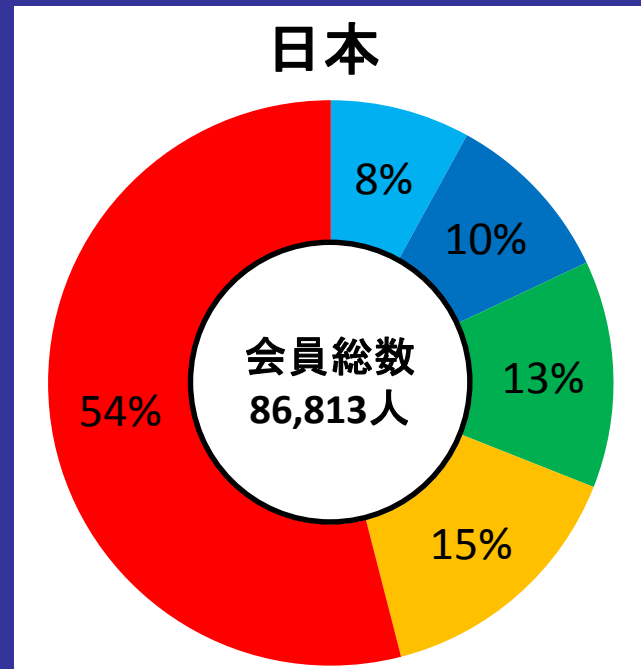
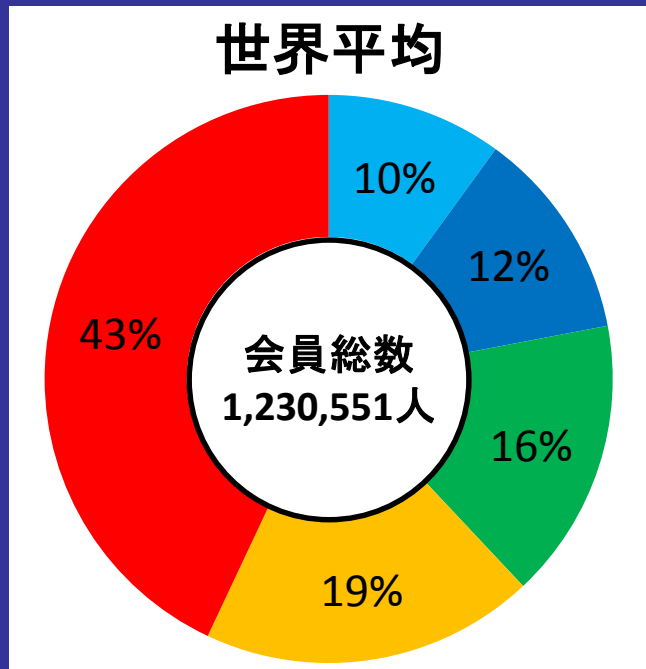


中央/東南アジア



アジア地区における会員の現状(ロータリアン歴)2

出典:「会員増強の地域別補足資料～アジア～2013年版」RI HP



- 1年未満
- 1～2年
- 3～5年
- 6～10年
- 10年以上

この様な状況下、日本のRCに求められること

会員増強 : 「Membership Development」

「Development」に込められた意味

「Increase」でも「Grow」でもなく・・・

「量＝人数」と「質＝資質」の両面からの取り組み

「会員増強」の方程式

$$M. D = Q1 \uparrow \times Q2 \uparrow$$

Quality (資質)

Quantity (量=会員数)

この「Quality(質的側面)を高めるためには」

ロータリーの理念に対する理解を深め、

「守る(べき)もの」と「変わる(べき)もの」

を判断する力を養うことが必要ではないでしょうか

「不易流行」という言葉があります

松尾芭蕉の言葉 弟子の向井去来が『去来抄』に記す

蕉門に千歳不易の句

一時流行の句あり

是を二つに分けて教え給へる

その元は一つなり

不易を知らざれば基たちがたく

流行を知らざれば風新たならず

不易は古によろしく

後に叶ふ句なる故千歳不易といふ

流行は一時一時の変にして

昨日の風今日宜しからず

今日の風明日に用ひがたき故

一時流行とはいふ

はやる事をするなり

すなわち・・・

「不易」とは・・・永遠に変わらないもの

「流行」とは・・・時とともに変わるもの

ロータリーにおける「**不易**」とは

「**親睦**」と「**五大奉仕の理念と実践**」にあると考えます。

その中でも、ロータリーが職業人の集団であることから、
「**職業奉仕**」が奉仕の大きな柱となっています。

ロータリーの樹



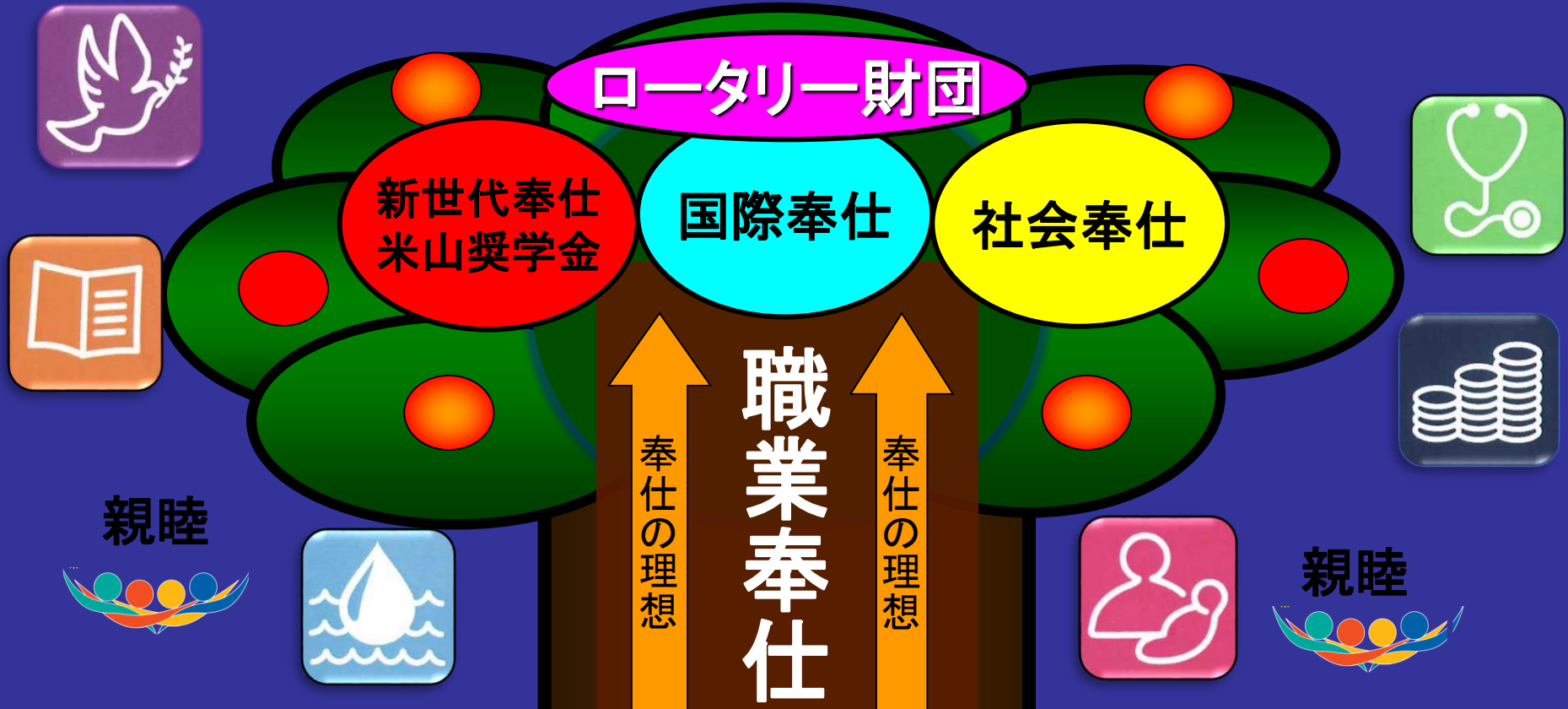
1984-1985年度

RID2730

田中千尋ガバナー創作

ロータリーの樹

2014.3.8 第4G IMにて大阪RC庄野晋吉氏紹介



ロータリーの目的・四つのテスト

親睦 — クラブ奉仕 — 助け合い

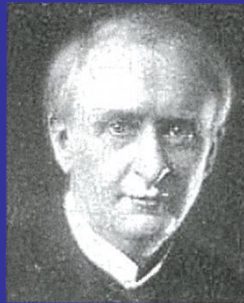
超我の奉仕

最もよく奉仕する者、最も多く報いられる

「決議23-34」を改めて考察してみる

(1) 決議までの歴史的背景

- ◆ 1910年8月 A. F. シェルドンが第1回全米RC連合会年次大会(シカゴ)で「He profits most who serves his fellows best」発表



Arthur Frederick Sheldon (1868-1935)

- ◆ 1911年8月 B. F. コリンズが第2回全米RC連合会年次大会(ポートランド)で「Service , not self」をスピーチ



Benjamin Frank Collins

◆ 1912年頃から 全米のRCで「身体障害児」問題が関心ごとになる

◆ 1918年 オハイオ州に「エリリアRC」設立
エドガー・アレン(Edgar Allen)が入会

◆ 1922年 同クラブ他2クラブから「決議22-17」提案し採択

その後、この決議がロータリーの本質に関わる
問題として大激論に発展
（「理論派」と「行動派」の対立）

ロータリーが空中分解の危機に立ち至る

◆ 1923年6月 セント・ルイス大会で「決議23-34」を採択
（テネシー州ナッシュビルRCが決議案提出）

「理論派」と「行動派」の主張を取り入れて分裂回避

「決議22-17」

ロータリアンが身体障害児に対する関心を示し、かつ彼等障害児に身体的矯正や外科的治療を施すことが有効な場合には、これを援助したいという意欲を表明していることに鑑み、国際ロータリー第13回年次大会は、各ロータリークラブが行っているかかる人道的活動を賞揚し、且つ本大会に出席している各代表者に対し、この問題に関する注意を喚起し、またこの運動が各クラブの地域社会に於ける奉仕の機会を提供するものであることを、それぞれのクラブに認識させるようこゝに決議する。

「決議22-17」に対する主な反論

1. ロータリーは実業家、職業人の組織であるから、実業及び職業上の問題に力を注ぐべきで、社会問題については唯広く関心を寄せるといっただけでも事足りる。
一業種一人という制度の意味もそこにある。
2. ロータリーは個人奉仕が主体で、クラブとしてこのような問題に直接関与すべきではない。クラブは会員個々人にこの様な社会問題に関心を示すよう奨励するにとどまるべきである。
3. クラブという組織がこの様な社会問題にのめり込むと、ロータリー本来の面目が失われるおそれがある。ロータリーは言論的唱導機関であるべきだ。
4. 各ロータリークラブは、それぞれ独自の存在で完全自治権を持っている。
そのクラブの活動に対し、他からあれこれ指図されるいわれはない。

「決議23-34」の概要

1. ロータリーは、基本的には一つの人生哲学である
 - ・第1標語 「**超我の奉仕**」
 - ・第2標語 「**最もよく奉仕する者、最も多く報いられる**」
2. RCは教理信条等は一切なく、**事業及び専門職業人の代表**として
ロータリーの奉仕の哲学を実践する人々の集まり
3. 国際ロータリーの役割は、各クラブの活動を標準化するための一
種の**情報交換所**
4. 奉仕するものは**行動(実践)**しなければならない
5. 個々のRCは、奉仕活動の選択において**絶対的自主権**を有する。
6. クラブとして集団で活動するよりも、**個々人の力**を動員する方が
ロータリー精神によりかなっている。
クラブとしての活動は、会員に奉仕の訓練を施すための研究室の
実験としてのみ考慮されるべきもの。

その後の「決議23－34」の変遷

◆ 修正その他関連する規定審議会決議等の経緯

「決議26－6」

「決議36－15」(無効)

「規則制定51－9」

「決議64－43」

「決議66－49」(無効)

「決議86－203」(ポリオ撲滅立ち上げ)

(「23－34」完全撤廃案、取り下げ)

「決議92－286」(「23－34」と関連する新声明として採択)

「決議10－182」

◆ 1984年版「手続要覧」の掲載から削除

現在は「**第8章 社会奉仕**」の категорияで掲載

日本は職業奉仕の実践国であり先進国

1. その裏付けとして、日本には長寿企業が多く存在する

- 100年以上企業 約2万社(帝国データバンク 2009年現在)
(学者の調査では5万社との説も)
- 200年以上企業 938社
- 300年以上企業 435社
- 1000年以上企業 6社

2. 諸外国の長寿企業の実態 (100年以上企業)

- | | | | | | |
|------|--------|-------|-------|-------|-------|
| ◆ドイツ | 約1500社 | ◆イギリス | 約300社 | ◆フランス | 約300社 |
| ◆中国 | 数10社 | ◆韓国 | 2社 | ◆アメリカ | 少数 |

日本に長寿企業が多いわけ ～ その1 ～

- 本業重視
- 信頼経営
- 職人氣質(精神)
- 血縁を超えた後継者選び
- 保守的な企業運用
- 精神的バックボーン(理念)

⇒ 日本的経営

日本に長寿企業が多いわけ ～ その2 ～

精神的(思想的)バックボーン

- 道元禅師 1250年ごろ 「正法眼蔵」(仏心のめざめ)
- 石田梅岩 1700年ごろ 「石門心学」
- 二宮尊徳 1800年ごろ 「報徳思想」
- 渋沢栄一 1900年ごろ 「道徳経済合一論」

日本に長寿企業が多いわけ ～ その3 ～

商道徳(職業倫理)の実践

- 近江商人 1750年ごろ 「三方よし」
(売り手よし、買い手よし、世間よし)
(1754年 麻布商 中村治兵衛宗岸)
- 下村彦右衛門 1700年ごろ 「先義而後利」
(「大丸」の創業者) (義を先にして利を後にする者は栄える)

昨今のRIにおける「流行」の構図と考えられること

◆「アイ・サーヴ」から「ウイ・サーヴ」へ軸足シフト



◆「ウイ・サーヴ」には資金が必要



◆RIの財務体質強化が必要



◆会員数を増やす必要がある



◆そのためにルールを緩和する方向へ改訂

「流行」に対する対応

- ロータリー情報(知識)の収集
- 収集した情報の掘下げ
- 拒絶意識の廃除
- 会員同士で議論
- しっかりとした意見の形成

日本のロータリアン そして 私たちにできること

内に向けては : 五大奉仕に対する

- ・理解を深める
- ・日常的な実践

RIに向けては : 意見の表明

私たちにもできるRIへ意見表明

●規定審議会決定事項への反対表明

2013年は第2700地区から13RCが反対表明

●規定審議会への立法案提出

2013年は日本から22立法案提出し6案が採択

地区での決議方法:①地区大会 ②郵便投票

③地区決議会(新設。規審13-308/手続要覧P150参照)

ご清聴ありがとうございました

地区R情報委員長 灘谷 和徳